2023年度事業報告

1. 基本方針

日本包装学会の目的は、「包装にかかわる各種材料、加工、機械、システム、製品、検査、流通、デザイン、心理、環境、社会等の科学及び技術の進展をはかり、もって学術文化の向上と産業の発展に寄与すること」であると会則に規定されており、その目的を達成するために、①研究発表会、研究会、講演会、講習会及び見学会等の開催、②会誌その他本会の目的に関係する資料の発行、③関連機関・団体との連絡及び協力、④その他本会の目的達成に必要な事業を行っています。

2023年度は、これまでの活動実績を踏まえ、「躍動する女性・若手・学生会員」、「情報発信機能の強化」、「国際化・異分野共生」の方針を立てました。学会における各種委員会におけるメンバーの世代交代を進めつつ、研究集会等での若手の情報発信も成果を挙げつつあります。また、学会誌掲載済みのコンテンツを電子媒体として積極的に公開していくことにより、学会の存在を広くアピールするため具体的な取組を進めました。さらに、コロナ禍により途絶えていた I P S の開催準備を進めるとともに、年次大会についてもハイブリッド形態での開催を準備しました。

2. 学会運営の経過

2-1. 通常総会

2023年8月25日、次の要領で開催した。

- メーリングリストに基づく招集
- ・ 学会ホームページ掲載の議案書ダウンロード
- パスワード付き回答フォームを用いたweb議決
- 議決権数 371 (回答92、委任279)、会員数:384

2-2. 理事会

2023年度は3回の開催となった。

- 第94回:2023年4月13日web開催第95回:2023年7月10日web開催
- ・ 第96回:2024年3月7日 東京海洋大学越中島キャンス・web併催

2-3. 会長補佐会議

2023年度は1回の開催となった。

第105回:2023年10月31日 web開催

3. 各委員会の活動

3-1. 編集委員会

(1) 論文等の査読と学会誌掲載

以下の論文等9報の査読、審査を行い、学会誌に掲載した。

①一般論文

- ・ 電池なし無線センサを用いた輸送包装試験
- ・ 大型結晶の層状複水酸化物を用いた有機-無機コンポジットガスバリア膜の作製と膜 特性評価
- ・ 段ボール緩衝構造の標準化による設計曲線を用いた簡易設計法
- Evaluation of the Impact of Oxygen and Carbon Dioxide Atmospheres on Respiration Rate Measurement of Cherry Tomato

ニューラルネットワークを用いた段ボール箱の圧縮強度予測

②技術報告・ノート

- ・ 1 試料による落下試験機を用いた衝撃強さ試験
- ・ パレット付段ボール箱圧縮強度の基礎研究
- ・ 振動試験による転倒検知器の誤作動発生に関する研究
- ・ 輸送条件および振動試験環境に応じた3軸加速度パワースペクトル密度の設定方法

(2) 特集の編集と学会誌発行

環境対応、バイオマス活用などのトレンドや包装に関する研究の最新情報について以下の特集を編集し、学会誌Vol.32 $No.2 \sim Vol.33$ No.1 を発行した。

- ・ Vol. 32 No. 2 社会的要請に伴う容器包装と再生資源としての変化
- Vol. 32 No. 3 大学発包装関連技術シーズ集VI
- · Vol. 32 No. 4 Packaging Study from the World
- Vol.32 No.5 農産物の輸出促進を後押しする品質保持技術
- Vol.32 No.6 論文投稿のすすめ ~論文を投稿してみよう~
- Vol. 33 No. 1 環境に配慮した製品設計の課題とその一解決策として、撥水、撥油、滑液技術群の紹介

(3)編集委員会開催

以下の6回開催した。対面・オンラインのハイブリッドとオンラインのみの開催を併用している。

- 第195回 2023年5月8日 対面・オンライン会議
- 第196回 2023年7月11日 オンライン会議
- 第197回 2023年9月12日 対面・オンライン会議
- 第198回 2023年11月13日 オンライン会議
- 第199回 2024年1月15日 対面・オンライン会議
- 第200回 2024年3月12日 オンライン会議

(4) 論文等のオープンアクセス推進

科学技術振興機構(JST)、「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)への一般論文、技術報告、ノートの登載に関わる作業を進めている。

3-2. 企画委員会

- ・ シンポジウムを3回開催した(第88回「食品ロス削減に向けた食品技術と容器包装の役割」(2023年.6/23)、第89回「医薬・化粧品包装のデザインと機能」(2023年.11/10) および第90回「循環型社会の実現に向けて-包装技術の現状と最新情報-」(2024年.2/20))。第86回はオンライン開催とし、参加者へのアンケート調査も実施した。
- ・ シンポジウムの企画や分担体制等の確認のために、企画委員会を3回、Zoomシステムによるオンライン形式で開催した(第143回:2023年5月15日、第144回:2023年10月10日、第145回:2024年1月29日(含2024年度向け))。

3-3. 研究委員会

(1) バリア材料研究会

第26回バリア材料研究会を開催

- ・ テーマ:サーキュラーエコノミーを見据えたバリア包材のモノマテリアル化
- · 参加者:60名

(2) 輸送包装研究会

輸送包装ディスカッション2023を開催

- ・ テーマ: 包装貨物試験規格
- 参加者:40名
- (3)包装と I o T研究会

活動内容を検討したが、具体化には至らず。研究会内で協議の結果、本研究会の継続は 困難と判断。

(4) 若手の会

若手の会の代表を含め幹事を交代し、今後の活動に向けたアンケートを行った。

3-4. 大会運営委員会

新型コロナウイルス感染症がようやく収束に向かい、5月には新型コロナウイルス感染症の位置付けの変更(5類感染症)に伴い、基本的対処方針および業種別ガイドラインが廃止され、日常における基本的な感染対策は主体的な選択を尊重し、個人や事業者の判断に委ねることが基本となった。そのような状況下ではあったが、第32回は確実な大会運営と参加者の安全を優先し、第31回と同様なオンライン形式で開催した。

新型コロナウイルス感染状況や第32回の参加者アンケート結果などから、従来の会場発表とオンラインライブ配信を組み合わせたハイブリッド形式による第33回の実現に向けて、会議室とTeams会議を併用した運営委員会にて闊達な討議を行った。

- 第250回運営委員会(2023年4月11日)会議室+Teams会議による審議
- 第251回運営委員会(2023年6月13日)会議室+Teams会議による審議
- ・ 第252回運営委員会(2023年7月4日)大会会場(サニー会議室)にて大会リ ハーサル
- 第32回年次大会をオンラインにて開催(2023年7月20日・21日)
- 参加登録者数:145名
- ・ 発表数:口頭24件、ポスター12件、学会賞1件、奨励賞1件、特別招待講演1件
- ・ 第253回運営委員会(2023年9月12日)会議室+Teams会議による審議 --- 以降は第33回年次大会に向けての準備 ---
- 第254回運営委員会(2023年10月10日)会議室+Teams会議による審議
- ・ 第255回運営委員会(2023年11月14日)会議室+Teams会議による審議
- 第256回運営委員会(2023年12月5日)会議室+Teams会議による審議
- 第257回運営委員会(2024年1月19日)会議室+Teams会議による審議
- 第258回運営委員会(2024年2月13日)会議室+Teams会議による審議 年次大会 開催日:2024年8月28日(水)、29日(木)

会場:東京海洋大学 越中島キャンパスに決定

第259回運営委員会(2024年3月12日)会議室+Teams会議による審議

3-5. 広報委員会

Web関連

- 2023年5月 一般論文アブストラクト部分掲載開始
- 2023年5月1日 学会ホームページセキュリティ強化のためhttps化開始
- ・ 2023年11月28日 過去10年分の「用語」を「包装用語解説」として公開
- 毎年12月に1年分を更新(広報委員会が行う)
- ・ 2024年1月18日 「投稿への参考資料」として 「日本包装学会誌の論文投稿から掲載まで」著:堀口翔伍

-3-

「論文執筆の心得~日本包装学会誌の論文の書き方のいろは~」著:永井一清 日本包装学会誌 Vol.32 No.6 (2023)の2報を掲載

3-6. 国際交流委員会

2024年にIPSを開催できるかどうか議論を進めた。2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行した点、2024年の年次大会がハイブリッド形式での開催に決まった点から、2024年には海外から講師を招聘し、IPSを開催することは可能であると判断した。

2023年の12月から、講演候補者の方々に依頼を開始した。

3-7. 学会賞等選考委員会

昨年に引き続き、2024年3月28日にオンラインで選考委員会を開催、慎重に審議 を行った結果、次の通り決定した。

- (1) 日本包装学会賞(推薦なし) 該当者なし
- (2)日本包装学会奨励賞(推薦なし) 該当者なし
- (3)日本包装学会論文賞(対象論文5)

著者:堀口 翔伍、津田 和城、細山 亮、渡部 大輔 論文タイトル:荷台振動の簡易加速度PSD推定手法の精度検証

(4)日本包装学会功労賞

中嶋 隆勝、 牧野 義雄、 渡邊 知行

3-8. 財務委員会

- ・ 2023年度決算及び2024年度予算の作成
- 毎月の財務状況の確認

3-9. 総務委員会

総会、理事会、会長補佐会議の事務局として学会活動を運営した(詳細 学会運営の経 過参照)。

以上のとおり、報告致します。

斎藤 勝彦(会長)

久保田 清(副会長)

宮田 剣(副会長)

志水 基修(編集委員長)

北澤 裕明(企画委員長)

川口 和晃(研究委員長)

麻生 雅晴 (大会運営委員長)

津田 和城(国際交流委員長)

石川 豊(学会賞等選考委員長)

東山 哲(財務委員長)

高山 崇(広報委員長)

牧 伸行(総務委員長)

坂巻 千尋(監事)

金子 武弘(監事)